

連載

19

在宅医療奮闘記

平成7年より
在宅を開始した

私の思い出

(医)東西会 千舟町クリニック院長

橋本 満義 (63歳・内科)

先生、男前ね～。きれいな顔しているわ。



ある施設で、いつものように定期的な訪問診療を行っていた時のことです。患者さんは95歳の女性で、心臓と肺の力が弱くなっていて自力では呼吸しづらく、酸素吸入器を使わないといけない状態でした。

その女性の血圧・脈・体温等を測定して症状を把握した後、医療行為をしようと「ご気分はいかがですか？」と問いかけました。するとその患者さんが「先生、男前ね～。きれいな顔しているわ。」と笑顔でおっしゃったのです。私は一瞬とまどいを覚えました。人間の生命力の素晴らしさに感動しました。

元ジャイアンツの長嶋選手は常日頃千本ノックを受け続け、あんなにすごいスーパースターになったと聞いています。

私も「疾風に勁草を知る。風雪は勁草を育む。」に習い毎日24時間365日休み無く松山全域の在宅業務を行い、仏教の修行「千日回峰」のごとく自己を鍛錬してきたつもりでした。しかし、患者さんの突然の一言に返す言葉もみつからなかった私は、齢63歳にしてまだまだ青二才であることを自覚し、更なる研鑽を積もうと深く心に誓ったのでした。

「言葉」とは、論理的関係ではなく、むしろ「生きること」であるということがわかっています。言語の奥には生命情報があるのです。

ですから、在宅医療は医療の技術だけではなく、心を込めた対応を求められているのでしょう。

「お医者さんが来てくれる」

質の高い在宅医療・看護・介護を『千舟町クリニック』は目指しています。



機能強化型・有床 在宅療養支援診療所

(医)東西会 千舟町クリニック

松山市千舟町6-4-9 Tel:089-933-3788

<http://www.touzaikai.jp/>